

日本学術会議

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会（第25期 第10回）

議事要旨

1. 日 時 令和5年9月16日(土) 11:00~12:30
2. 会 場 日本学術会議6-C会議室及びオンライン (Zoom)のハイブリッド開催
3. 出 席 永井、大倉、家田、有本、唐沢、渡辺、向殿、西條、太田、浅間、藤井、尾崎、野口、
和田、澁澤、柴山、松宮、遠藤、宮崎、須田、中野、鎌田
参考人 石田、横山、今井、樋笠、佐治 オブザーバー 葛巻

(敬称略)

4. 資 料

資料1：第9回議事要旨（案）

資料2：提言「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン」

資料3-1：「自動運転における ELSI 検討の意義と期待すること」唐沢かおり

資料3-2：「SIP『スマートモビリティプラットフォームの構築』で目指すもの」石田東生

資料3-3：「自動運転による事故と刑事責任及び倫理との関係について」今井猛嘉

資料3-4：「自動運転に関する倫理指針・国際ガイドライン規格と刑法上の注意義務」樋笠堯士

資料3-5：「自動運転の倫理・法的課題——自動運転に関する法整備の現状と課題——」松宮孝明

資料3-6：「SIP 自動運転の成果と意義」葛巻清吾

資料3-7：「自動運転 Mobility as a Service 実用化に向けた取組」横山利夫

資料3-8：「ついに普及する、自動運転バスサービス」佐治友基

資料3-9：「成功の鍵は、人間と技術の未来共創」遠藤薫

資料3-10：「自動運転バスはシビックプライドの源泉になり得るか。」谷口綾子

議 題

1) 前回議事要旨確認

永井委員長から説明があり、承認された。

2) 提言について

永井委員長から、昨日（9月15日）に幹事会承認を得て公開された提言について、科学的助言等対応委員会とのやりとり、査読意見に対する対応、幹事会での質疑の状況等について説明がなされた。

3) 学術フォーラムに向けての意見交換

まず、永井委員長から、今期の提言発出に至る経緯や提言の内容について、提言や学術フォーラムの趣旨説明について席上配布資料を基に説明された。

続いて、3つの討論について、それぞれのモデレータから、討論内のやりとりについての基本方針に

ついて説明がなされ、登壇者と課題別委員会委員との意見交換がなされた。

4) その他

大倉副委員長から、午後の学術フォーラムについて何らかの形で記録にとどめておきたいとの提案があり、基本的に了承された。細かなやり方については、大倉副委員長から書式等のひな形を提示して進めていくこととした。

永井委員長から、本日の課題別委員会と学術フォーラムの実施で今期の活動は終了し、あとはフォローアップ等の対応をしていく。今後に向けては第 26 期の体制にお任せしたいとの発言があり、今期の活動に対する委員の先生方のご協力に謝意を表して終了した。

なお、議事要旨の確認は最終的に委員長一任が了承された。

以上